

問 題		得点率 (%)	問 題		得点率 (%)	問 題		得点率 (%)
1	問 1 (1)	94.9	2	問 1	90.2	3	問 1 (1)	45.8
	問 1 (2)	92.9		問 2	28.5		問 1 (2)	87.5
	問 2	63.7		問 3	79.3		問 2	28.8
	問 3 X	45.1		問 4	68.8		問 3 (1)	81.0
	問 3 Y	84.7		問 5	75.9		問 3 (2)	44.4
	問 4 (1)	79.3		問 6	81.0		問 4	24.1
	問 4 (2)	47.8		問 7 (1)	30.7		問 5	90.8
	問 5	62.0		問 7 (2)	64.7		問 6	38.6
	問 6	18.1		問 8	78.6		問 7	79.7
				問 9	63.4		問 8	48.3

合格者最高点 67
合格者最低点 46

1 (地理分野中心)

問 1 (1) 雨温図の読み取り問題で、ほとんどの受験生が正解していました。①は冬に低温であることから**(ア)**、②は冬の降水量が夏と比べて多いことから**(カ)**、③は冬の気温が比較的高く夏の降水量が多いことから**(ク)**と判断できます。

(2) 日本の農業に関する基本的な問題で、ほとんどの受験生が正解していました。①は「クリーク」「米と麦類の二毛作」から**(ク)**、②は「水田単作地帯」「暗渠排水をおこなって湿田の乾田化」から**(カ)**、③は「泥炭地」「客土」から**(ア)**と判断できます。

問 2 扇状地の形成や土地利用について問うた問題で、概ねよくできていました。

問 3 **(ウ)**は安積疏水、**(エ)**は両総用水を示しています。地図を活用した学習を心がけてください。

問 4 (1) 少し応用的な問題でした。日本の多くの地域は季節により降水量が変化するため、ダムの水量は変化します。よって年間を通して安定した電力を生み出せるとはいえません。

(2) もう少し高い得点率を期待していました。

問 5 資料を見て、その施設・設備がどのような役割を果たすかを考えてもらいたかった問題でした。①は正しい内容です。この放水路に河川の増水分を流し込むことで浸水被害を減らすことができます。②は誤っています。**Q**の図でみられる不連続な堤防は、川の流れの向きと反対に口が開いており、いったん河川の水を堤防の外側に逃がすことで一時的に河川を流れる水量を減らし、下流での氾濫を防いでいます。増水した河川の水をすみやかに下流域に流すためではありません。

問 6 近年の土石流被害の増加を踏まえ、2つの砂防ダムの構造のちがいについて考えてもらいたいと思い

出題しました。Ⅰの構造の砂防ダムではすべてをせき止めてしまい、土砂が下流に供給されなくなります。また、土砂や流木などがたまり続けると決壊する危険性が高まります。Ⅱの構造の砂防ダムでは、流木など大きなものはせき止められますが、土砂などは通すことができ、透過性が高いといえます。そのため、下流への土砂の運搬を妨げません。「Ⅱの方が透過性が高いため、下流への土砂の運搬を妨げない。」という内容が書けていれば正解です。下流の地域への効果として、「流木を食い止められる」「魚の移動を止めない」といった内容でも加点しました。

2 (歴史分野中心)

問1 基本的な事項を問うた問題で、ほとんどの受験生が正解していました。菅原道真は、9世紀に遣唐使の派遣停止を建言しました。墾田永年私財法は8世紀に制定されました。時期が異なることから、Aが誤っていると判断できます。

問2 794年は延暦十三年にあたります。天平は8世紀、承平は10世紀の元号です。(ウ)には、8世紀に天皇となった桓武天皇があてはまります。天智天皇・天武天皇は、ともに7世紀に天皇になりました。正答率は低めで、Dと解答した受験生が多かったです。

問3 基本的な事項を問うた問題でした。淡路国は現在の兵庫県にあたります。また、橘逸勢は三筆として知られています。

問4 江戸幕府の幕政改革は頻出ですので、よく理解をしておいて欲しいです。下線部(力)の直前に「享保」とあるので、Cの上げ米の制について述べた文を選びます。Aは室町時代の徳政令について、Bは鎌倉時代の御恩について、Dは天保の改革について述べています。

問5 天正遣欧使節は、有馬晴信・大友義鎮・大村純忠らキリシタン大名によって派遣されました。織田信長や豊臣秀吉の政策は頻出ですので、よく理解をしておいて欲しいです。

問6 『奥の細道』は、浮世草子ではなく俳諧をまとめた紀行文であり、①・②ともに誤文です。高い正答率でした。

問7 (1) 「西陣」という地名は、応仁の乱において、この地に西軍の陣が構えられたことに由来しています。また、本文より、下線部(シ)は細川勝元を指しており、下線部(シ)と対立していた「ある守護大名」は山名持豊(宗全)であると考えられます。「応仁の乱において、西軍の総大将だった山名持豊(宗全)が、この地に陣を構えた(ことに由来する。)」という内容が書けていれば正解です。およそ3割の受験生は無回答でした。

(2) Aについて、貝塚などの遺跡が内陸部でも発見されることから、縄文時代は現在より海面が高かったと考えられています。Bは「埴輪」という部分が、Dは「鉄器がまったく使用されていない」という部分がそれぞれ誤っています。もう少し高い得点率を期待していました。

問8 Bは「柳条湖」という部分が、Cは「中華民国軍」という部分が、Dは「盧溝橋事件」という部分がそれぞれ誤っています。概ねよくできていました。

問9 基本的な事項を問うた問題でした。もう少し高い得点率を期待していました。

3 (公民分野中心)

問1 (1) ①は誤文です。2015年に採択されたのはSDGs(持続可能な開発目標)で、MDGs(ミレニアム開発目標)に代わる国際社会の新しい目標です。②は正文です。条約の発効に必要な批准国・地域が50に達したことで、2021年1月に核兵器禁止条約は発効しました。もう少し高い得点率を期待していました。

(2) 地球環境問題に関する基本的な問題でした。**(あ)**は酸性雨、**(い)**は砂漠化、**(う)**は熱帯林の減少、**(え)**はオゾン層の破壊を示しています。

問2 資料を正確に読み取れるかを問う問題でした。資料の読み取りでは、示されている数字をきちんと確認することが重要です。この問題では、「増加数」「増加率」のちがいを意識して読み取る必要があります。

問3 (1) 高い正答率でした。衆議院議員の被選挙権を持つのは25歳以上の日本国民ですが、裁判員は20歳以上で選挙権を持つ人のなかから選ばれます。なお、2022年4月から、裁判員に選ばれる年齢が18歳に引き下げられます。

(2) **A**の環境権は、日本国憲法に規定されていない「新しい人権」のひとつとして知られています。すべてを選ぶ問題であったこともあり、正答率は低めでした。このような問題では、より正確な理解が求められます。

問4 近年、自然災害が増えていることを踏まえ、時事的な問題として出題しました。

問5 東京オリンピックで話題になったこともあり、ほとんどの受験生が正解していました。

問6 オンブズマン(オンブズパーソン)制度とは、有識者である第三者(オンブズマン)が行政に対する苦情を市民から受け付け、その原因を究明することで、問題を解決しようとするものです。もう少し高い得点率を期待していました。**C**や**D**と解答した受験生が多かったです。

問7 この**【資料】**は、フランスの思想家であるモンテスキューが著した『法の精神』の一部を日本語訳したものです。用語を単に覚えるのではなく、その意味や背景を意識した学習を心がけて欲しいです。

問8 選挙は市民の政治参加の代表的な手段ですが、それ以外にもさまざまな方法で市民は政治に参加することができます。こうした方法を「異なる観点からふたつ」考えて説明してもらう問題でした。1つにつき2点として採点しました。(同じ観点で書かれていると判断した場合は片方のみ得点としました。)解答例としては、以下のようなものが挙げられます。

- ・国や地方の行政機関や議員に、要望を伝える。(請願をする)
- ・規定の署名を集めて、直接請求をおこなう。
- ・パブリックコメントで意見を表明する。

以上